

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	通信会社（社 員）	販売量の動き	・携帯電話の新機種の販売、新サービスの提供がスタートした。	
	やや良く なっている	百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・客の慎重な購買動向は引き続き変わらないが、一つのキーワードとして、健康、癒し、スローフードなどライフサイクルに合った商品に対して、価格ではなく価値観を求める動きが出始めている。	
		百貨店（営業担 当）	お客様の様子	・来客数は少ないものの、商品の買上ヒット率が高まっている。特にダウンコートを中心とした婦人コートが好調である。	
		家電量販店（経 営者）	販売量の動き	・11月は上旬から中旬にかけて気温の高い日が多かったため、暖房商品は前年同月比約60%と全く不振であった。しかし、プリンターやデジカメなどパソコン周辺機器やDVDなど映像関係商品が好調に推移している。	
		乗用車販売店 （経理担当）	販売量の動き	・秋口に登場したモデルチェンジ車の効果が出ており、生産の関係で客への引き渡しが遅れているものの受注ベースで良い方向に向かっている。	
		高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・今月は土、日、祝日が12日間もあり、秋の行楽シーズンと重なったため、ウィークエンドの集客が好調であった。特に回転率の良い店では大幅な売上増につながっている。	
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・パック旅行が前年実績を上回り、海外旅行も前年並みとなった。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・月の前半は選挙の関係で人出が少なかったが、後半は週末に全国的スポーツ大会や大きな会合があり、選手の送迎で忙しく、夜の街も以前より人出があった。しかし、日中は相変わらず静かである。	
		住宅販売会社 （従業員）	販売量の動き	・展示場の入場者は減少している。個別のイベントを開催しても新規客を含めて来客数は少ないが、契約者は以前より増えているので手ごたえはある。 ・土地が下げ止まりしていない中で、一区画15～30%の値引きにより原価を割り込んで販売しようとしても、ほとんどの客が様子見をしている。	
	変わらない		百貨店（売場主 任）	来客数の動き	・3か月前と比較して来客数はほとんど変わっていないが、客単価は上昇している。
			スーパー（店 長）	単価の動き	・カード会員の特別招待会を開催したが、来客数、客単価ともに前年と横並びで終わった。
			スーパー（営業 担当）	単価の動き	・来客数は前年並みであり、2、3か月前と変わらない。ただし、野菜の相場安のため単価が落ちている。
			コンビニ（経営 者）	単価の動き	・おでんや唐揚げなどのファーストフード商品が特に悪い。
			衣料品専門店 （経営者）	来客数の動き	・寒さの関係か、売上が前年並みまで戻ってきたが、来客数は減少している。
			家電量販店（店 長）	単価の動き	・来客数は前年並みで推移しているが、客単価はここ数か月間低下したままである。
		乗用車販売店 （総務担当）	販売量の動き	・低価格の1,000～1,300ccの小型車は前年の販売台数をキープしているが、高級小型車はやや低調である。一方、環境にやさしい200万円以上のハイブリッド車は話題性が高く、需給バランスが大きくずれて納期は来春となっている。	
		乗用車販売店 （営業担当）	来客数の動き	・ニューモデルが発表されると、通常の場合は来場者が増加するが、今回は前年と変わっていない。	
		自動車備品販売 店（従業員）	来客数の動き	・チラシを入れても来客数が増加しない。	
		住関連専門店 （店員）	販売量の動き	・全体の受注件数は前年同月比で98%である。ホームファッションは9、10月に比べて落ち込みが少なくなっているが、前年同月実績を2か月間クリアした大型家具は前年を割っている。	
	その他専門店 〔医薬品〕（営 業担当）	販売量の動き	・3か月前は冷夏で夏物が売れず、今月は暖冬気味で特にかいりや風邪薬など高額商品が売れない。		
	一般レストラン （スタッフ）	単価の動き	・コンビニや大型ショッピングセンターなどが営業時間を延長したため、当店の夕方、深夜の来客数が減少している。		

		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・3か月前に比べると、レストランウエディングの回復基調があり、若干の増収を見込んでいる。また、前年同月比ではレストランの通常営業がやや上向きとなっていること、婚礼件数が増加していることなどから宿泊部門の減収分がカバーされ、全体では前年をやや上回る見込みとなっている。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・団体客の動きはあまり良くないが、個人客が前年より増加している。
		設計事務所(職員)	販売量の動き	・引き合いや保留案件の具体化は一時的な現象であり、その後は受注に結びつく動きがない。
		住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・受注残は引き続き昨年比べて少なく、一昨年並みの状況であるが、単価は高くなっている。
やや悪くなっている		商店街(代表者)	来客数の動き	・最近、同じ商圈内のスーパーが食品売場を充実したり、リニューアルオープンしたため、その影響で当店の来客数や売上が減少している。
		一般小売店[鮮魚](店長)	単価の動き	・来客数は増えているが、1品単価の低下が目立っており、客の財布のひもは非常に固い。
		スーパー(店長)	単価の動き	・11月に入って当地域にスーパーとドラッグストアの2店舗がオープンし、チラシ合戦が展開されたため、1品単価が極端に落ちている。客はこの安い商品だけを目当てに買い回っているため、買上点数が減り、客単価も低下している。
		スーパー(総務担当)	販売量の動き	・豊作の野菜は秋口から安値が続き、売上が上がらない。
		スーパー(総務担当)	販売量の動き	・冷え込みが来ていないため、防寒用品など衣料品が特に悪い。ホームセンターでは暖房用品などの売上数量が前年に比べて落ち込んでいる。
		コンビニ(経営者)	それ以外	・家庭で簡単に作れる弁当やおにぎりなどの売上が落ちている。一方、日用品、カメラ、パンなどの売上はいつもと変わらないか、やや上向きで推移しており、全体としては変わらない。また、クリスマスケーキの予約は順調である。
		その他専門店[ガソリンスタンド](経営者)	単価の動き	・石油業界は激しい淘汰のため、原油高にもかかわらず市況が極めて悪い。また、ここへ来て暖冬の影響で暖房用灯油の販売量が落ちている。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・9月以来3か月間低空飛行が続いており、例年は忙しい11月も来店客が少なく、売上も例年の7割と大変厳しい。来店客の状況も職種によって両極端で、勝ち組と負け組の差がはっきりと表れている。
		競輪場(職員)	単価の動き	・来場者数は若干増加しているが、売上単価が低下している。
悪くなっている		スーパー(店長)	単価の動き	・来客数は前年に比べて増加しているが、客単価の下落傾向が続いている。
		その他専門店[酒](経営者)	販売量の動き	・11月は今年では最低の月であった。12月の歳暮シーズンも期待できない。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・一部の製品では中国からの輸入品一辺倒を見直す動きがあり、当産地の稼働率向上につながっている。
		新聞販売店[広告](従業員)	受注量や販売量の動き	・折込チラシの量が増加している。
	変わらない	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注の悪化を懸念していたが、期近の注文等が入ったため、なんとか横ばいとなった。
		化学工業(営業担当)	取引先の様子	・ドラッグストアにおける消費者1人当たりの医薬品購入額が減少している。
		プラスチック製品製造業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・受注ロットが相変わらず小さいままである。
一般機械器具製造業(経営者)		取引先の様子	・10月から11月にかけての国内の受注状況は西高東低である。関西地区の受注量は良いが、中京地区はあまり良くなく、東京地区は不振である。	
	電気機械器具製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・新製品の受注は好調であるが、従来品が徐々に減少している。製品が様変わりしているだけで、絶対量の増加はみられない。	

		建設業（経営者）	競争相手の様子	・公共事業においては、土木工事に限らずすべての発注案件で相変わらずダンピングが行われている。今年4月以降、県内の建設業協会会員企業で2社が廃業、3社が倒産したが、過当競争を続けながらも、なんとかしのいでいる現状である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・取引先の小売業者から、消費があまり伸びていないとの話が聞かれる。
		司法書士	取引先の様子	・一部の事業者では新たな不動産取得や新規事業の話があるが、個人の住宅ローンでは借換えがほとんどで、新規の住宅取得は少ない状態が続いている。
	やや悪くなっている	食料品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・量的な問題だけでなく、同一商品群の中でも低価格傾向が顕在化している。
	悪くなっている	建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・特に北陸3県においては受注価格競争が改善されず、むしろエスカレートしており、建築、土木ともに競争物件は採算を度外視しないとほとんど落札が困難な状況になっている。
雇用 関連	良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・4～11月の求人広告件数は前年を超え、今月も2割増となっている。ただし、内容的には正社員よりアウトソーシング、請負企業が目立つ。
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・地域による求人申込の格差が解消されつつある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・電子機械の製造・加工の請負求人がやや多くなっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人の増加傾向が続き、求職者は減少傾向である。また、有効求人倍率も改善してきている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人、求職状況は依然低調である。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-